

# かえる便り 27年度5号

平成27年5月19日

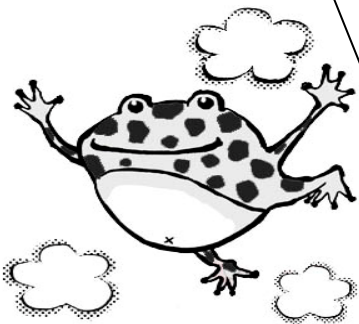
新緑の候、皆様にはますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。

人と動物の違いは多々ありますが、言葉を使用して自分の思いや感情を表現したり、物事を考えたり想像するということが大きな違いであり、“人が人たる所以”ではないでしょうか？

「ころろ」は誰にも見えないけれど、「ころろづかい」は見える

「思い」は見えないけれど、「思いやり」は誰にも見える

人が行動する時、心の中に描いた情景にふさわしい言葉を思い浮かべると思います。例えば、車内で「人に席を譲る」場合、“妊婦・子連れ・お年寄り”などの言葉が思い浮かぶと思います。その言葉と目の前の情景から“自分の心が揺さぶられ”行動を起こすのです。心で感じるから、行動に移すのです。『物事に強く心を動かされる』ことが感動です。感動とは、“感・即・動”。直ぐに行動するのです。



先日、昨年卒業したT君から電話がありました。彼の夢は、母校である智翠館で教員になることです。『教員・指導者として生徒を高められるよう専門知識や指導方法を在学中に身に付ける努力をなさい』、私の友人が教科教育の教員でその大学にいるので、彼を利用するよう指導しています。サッカーでは、瞬時の切り替えを継続でき体力がつけばトップに上げられる可能性が少しあるけど… 顔晴れ！

サッカーにおいても、様々な場面で“心を動かされる”ことがあると思います。試合中は勿論、ビデオ等でプレーを確認する際、映像と言葉による説明で自分の良い面や悪い点を再確認すると思います。自分を伸ばすためにも原則等を整理して、自分のプレーの“何がよくて何が悪いか”を言葉にして詳しく説明できるようになって欲しいものです。

仲間が楽にプレーできるように“ボールを運び・動く”ことがサッカーにおける「思いやり」です。技術や体力がなければ自分の思いを仲間に届けることは出来ません。心が未熟だから自分に妥協し、仲間に苦しいプレーを押し付ける状況になるのです。心・技・体を高め、“思いやり”を伝えられる存在になりましょう！！